



2020年1月15日
日本女子大学

第15回「平塚らいてう賞」受賞者を決定

＜顕彰＞（該当者なし）

＜特別＞差波 亜紀子 氏

＜奨励＞安野 直 氏

五十嵐 舞 氏

日本女子大学は本日、研究者・学生の顕彰・奨励を目的とした第15回「平塚らいてう賞」の受賞者を決定いたしました。

本年は顕彰2件と奨励2件の応募がありました。厳正な審査の結果、特別1件、奨励2件を選びました（顕彰は該当者なし）。受賞された方々を紹介します。

* 「平塚らいてう賞」

女性解放や世界平和のための活動に人生を捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女子大学校卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対する顕彰と奨励をはかることを目的として2005年に創設した賞。

■ 受賞者

特別（1件） 差波 亜紀子 氏（法政大学文学部 兼任講師）

奨励（2件） 安野 直 氏（早稲田大学文学研究科博士後期課程）

五十嵐 舞 氏（一橋大学大学院社会学研究科）

■ 贈賞式

2020年2月29日（土）14時から、日本女子大学目白キャンパス新泉山館にて行います。

＜選考委員＞

蟻川 芳子 [学校法人日本女子大学理事長、日本女子大学名誉教授、
一般社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会理事長]

出淵 敬子 [WILPF（婦人国際平和自由連盟）日本支部副会長、日本女子大学名誉教授]

倉田 宏子 [城西国際大学客員教授、日本女子大学名誉教授]

佐々井 啓 [アジア地区家政学会（ARAHE）会長、日本女子大学名誉教授]

大沢 真知子 [日本女子大学 現代女性キャリア研究所所長]

—この件に関するお問い合わせ先—

日本女子大学 広報課内「平塚らいてう賞」事務局
〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1
Tel:03-5981-3176 Fax:03-5981-3164
E-mail:raiteu@atlas.jwu.ac.jp
URL:https://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/



第15回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第15回受賞者の選考にあたり、私どもは候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の業績に対して各々「特別」「奨励」に値するとの結論に達しました。

ご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

<特 別>

受 賞 者 : 差波 亜紀子 氏

研究テーマ: 近代日本の女性知識層の広がりと社会的役割を明らかにすること

受賞理由 : 今回提出された具体的な研究成果は、平塚らいてうの評伝『日本史リブレット人 093 平塚らいてうー信じる道を歩み続けた婦人運動家』(山川出版社、2019年2月)である。

既存研究を踏まえつつ、一般読者向けに、らいてうの全生涯を簡明に紹介することを企図した良書である。本文の各所に、適切な頭注が付され、疑問を残さず読み進められるように配慮されている。新出資料の発掘や新視点から論ずることをめざした書ではない点がやや物足りないが、逆に、らいてうの思想や活動の分析を専らにした研究では言及されてこなかった興味深い記述も多々みられる。例えば、らいてうの父が編み物上手で、幼い頃、手袋を編んでくれたエピソードなど、進歩的で恵まれた生育環境を髣髴とさせる。

ジェンダーギャップが153カ国中121位という現代日本において、女性解放に力を尽くしたらいてうの軌跡を知らしめる本書が遍く読まれ、現状打破に繋がることを期待したい。

< 奨 励 >

受 賞 者 : 安野 直 氏

研究テーマ: ロシアにおける性的少数者のナラティブの構築

ーレズビアンとトランスジェンダーを中心に

受賞理由 : 先進国を中心に LGBTQ の権利を認める動きが急速に起きている。男性と女性という二元論的な区別を超えて、女性あるいは男性の中の多様性を認め、それを理解することは、ジェンダーをより深く理解し、そこから解放されるために欠かせない作業である。しかし、性的少数者に関する実態はそれほど明らかにされているわけではない。また、社会主義の国では性の多様性がどのように受け入れられ、語られてきたのか。それが経済の発展とともに、どのように変遷してきたのかについての研究も少ない。本研究はロシア文学の作品を通して性的マイノリティーがどのように語られ、またそのナラティブがどのように変遷していたのかを分析している。テーマの先進性と今後の発展性を評価し、受賞に値するとの判断に至った。

< 奨 励 >

受 賞 者 : 五十嵐 舞 氏

研究テーマ: 9/11 以降の性暴力をめぐる言説とトニ・モリスンのフェミニズム

受賞理由 : 本研究は、近年のマイノリティについてのさまざまな議論や権利の主張のなかで、原点ともいえる黒人女性作家のトニ・モリスンの作品を中心として論じたものである。五十嵐氏は 9/11 の惨事においても白人中心の情報が正当化されている現実を踏まえてアメリカの黒人に対する意識や差別を浮き彫りにし、マイノリティに

対する蔑視や性暴力といった現代社会にもなお存在する問題を明らかにすることを目的としている。

今後の研究においては、五十嵐氏はトニ・モリスンの 9/11 以降の作品をとおして、彼女の収集した史資料の調査から性暴力やそれに対する過去の議論や社会運動等を明らかにし、現代社会における女性に関する問題をさまざまな角度から検討してモリスン作品の意義と彼女のフェミニズムを明らかにしていくことを目指している。

以上の五十嵐氏の研究は、これまでの発表や論文をさらに進展させる可能性を示唆しており、らいてうの目指した女性解放に関する研究に該当するものである。

以上